



2019年7月1日

各位

会社名 株式会社リボミック
代表者名 代表取締役社長 中村義一
(コード番号：4591 東証マザーズ)
問合せ先 執行役員経営企画部長 米林 渉 司
TEL. 03-3440-3745

**滲出型加齢黄斑変性に対する第 1/2a 相試験の終了：
主要評価項目の達成と薬効を示唆する結果の確認**

当社は、6月17日付で、米国で実施中の滲出型加齢黄斑変性を適応症とした RBM-007(抗 FGF2 アプタマー) の第 1/2a 相試験 (SUSHI 試験) の結果を速報としてお知らせいたしました。その後、米国時間 6月26日に最後の被験者の 56日目の来院と検査が行われ、第 1/2a 相試験が完了いたしました。その結果、全評価期間における、主要評価項目 (安全性と忍容性の確認) を達成し、あわせて副次的評価項目においても薬効を示唆する結果が確認されました。

今回の試験では、既存薬である抗 VEGF 薬がほとんど奏功しなかった高齢者 (70代~90代) を対象としたため、網膜の構造変性等により視力の回復は当初から困難と想定されました。一方で、薬効評価の生理学的指標となり得る光干渉断層撮影 (OCT) による中心窩網膜厚の変化については、治療抵抗性的高齢の患者を対象としたにも関わらず、中心窩網膜厚の減少 (50 マイクロメートル以上) が、高用量 (第3コホート) の3名全員で確認され、その効果が56日目まで維持されました。さらに、3名中2名の被験者においては、56日目で中心窩網膜厚が約200マイクロメートル減少し、ほぼ正常レベルに回復しました。これらの結果は、本薬剤の優れた薬理作用を裏付けるものと評価しております。

今後は、SUSHI 試験の結果に基づいて、次の第2相試験の準備を進めてまいります。

なお、SUSHI 試験の結果については、7月10~12日に吹田市で開催される日本核酸医薬学会第5回年会において、当社社長の中村が講演する予定です。

URL: <http://www.knt.co.jp/ec/2019/natsj5/index.html>

本件による当事業年度の業績に対する影響はありません。

以上